

『がん哲学の源流』 ～ すき間に光を当てる “偉大なるお節介” ～

2025 年 7 月 15 日 新渡戸稲造記念センター 赴いた。その後、【がん哲学外来市民学会事務局の第 16 回つながるカフェに zoom 参加した。今回のスピーカーは神奈川『えびなメディカルカフェ』の内山喜一郎先生と奥様（看護師）であった。2020 年の神奈川県全域・東京多摩地域の地域情報紙『タウンニュース』には、内山先生ご夫妻の記事が掲載されている。

【内山夫妻の活動は、2008 年に順天堂大学医学部教授の樋野興夫医師が始めた『がん哲学外来』がベースにある。この試みは がんを通じて人生や命の意味を考える『カフェ』として全国で広がりを見せてきた。内山医師もその趣旨に共感し、2015 年 8 月、当時院長を務めていた海老名総合病院を拠点にカフェを主催。その後は会場を総合福祉会館やビナレッジへ。『病院内だと、どうしても医師と患者という関係を切り離しにくいですから。これはあくまで個人の活動で私の患者会ではないので、医療相談に乗ることはありません。私たちがやっているのは“偉大なるお節介”です』と笑う。『医療のすき間に光を当てたい』と内山夫妻。今後も 2 人で”言葉の処方箋”を届け続ける。】と紹介されている。

筆者は、海老名総合病院での【がん哲学外来開設記念講演 ～ 第 1 回大島正健記念 がん哲学外来シンポジウム～】(2015 年)に参上した。大島正健（札幌農学校 1 期生）のお孫さんの大島智夫先生（90 歳）も出席され、ご挨拶もして頂いた。筆者は、若き日に、『クラーク先生と その弟子たち』（大島正健著、大島正満、大島智夫 補訂；1993 年）を拝読し、札幌農学校を率いたウィリアム・クラーク(1826-1886) (画像)の『その地を去るに臨んで、馬上から学生に向かって叫んだ言葉 = boys be ambitious』の起源を大島智夫先生から伺った。大島智夫先生のご自宅での会食に wife と招待されたことが、忘れ得ぬ思い出である。

札幌農学校 2 期生には、内村鑑三(1861-1930)・新渡戸稲造(1862-1933)がいる。筆者は、札幌農学校 1 期生・2 期生が創立した札幌独立キリスト教会(1882 開始)で 2015 年『札幌独立キリスト教会創立 133 周年記念講演会』で講演『がん哲学の源流 ～ 内村鑑三と新渡戸稲造 ～』の機会が与えられたのが 今回鮮明に思い出された。人生の不可思議な出会いを痛感する日々である。

